

Chigasaki Municipal Hospital 【Newsletter】

市立病院 通信

令和1年11月1日発行 第3号

当院の取り組みや健康に関する様々な情報をお知らせします

茅ヶ崎市立病院
～ 健やか・共創 ～

〒253-0042 本村5-15-1

☎0467-52-1111

茅ヶ崎市立病院

検索



皮膚科

形成外科

始まる





形成外科は傷治療のプロフェッショナル

— 形成外科とはどのような診療科なのか。

三上 わかりやすくいうと、「傷の外科」です。日本の形成外科はまだ歴史が浅く、皮膚科や耳鼻科、整形外科から派生したところもあり、イメージがとらえにくいと思います。病気・けがなどによる傷や変形を手術によって治療改善する診療科で、先天性の疾患から床ずれまで、年齢や性別、扱う体の部位を限定せず、あらゆる手法や技術を駆使し、機能だけでなく形態的にもより正常に、より美しくします。

自動車に例えると「板金と塗装」の関係

— 形成外科と皮膚科は共に体の表面を対象としていますが、どのような違いがあるのですか。

種子島 皮膚の内科が皮膚科で、皮膚の外科が形成外科と聞いたことがあります。診療内容も多分に重なるし、形成外科でキャリアを積んで皮膚科に戻る先生もいます。形成外科の先生が皮膚悪性腫瘍のチームをまとめる病院もあります。

三上 皮膚科との関わりはとても強く、「形成外科が板金で皮膚科が塗装」と自動車の整備に例えた人がいました。

協体制で広がる治療の選択肢

— 床ずれの治療は形成外科ですか。

三上 皮膚科でも治療しますが、形成外科がある病院では、手術は形成外科が行う場合が多いです。

皮膚悪性腫瘍の中にはこのような種類の病気があります

- ◆**メラノーマ(悪性黒色腫)**
メラノーマは肌色の元であるメラニン色素を作り出すメラノサイトが癌化して発生する皮膚癌です。人種差があり、日本人は10万人あたり1~2人とされています。
【**症状**】多くは黒色調のしみやできもので、ほくろとの区別が難しいことがあります。一般的に左右非対称の不規則な形、病変の境目が曖昧、色調にムラがある、大きさがやや大きい、表面が隆起しているなどの特徴があることが多いです。小さいものだと診断が非常に難しい場合があります。
- ◆**有棘細胞癌**
表皮の細胞が癌化する比較的发生頻度の高い皮膚癌で、紫外線が関係していることがあります。
【**症状**】表面がいぼ状またはキズになることもある紅色調のしこりで、大きくなると悪臭を伴ってくることもあります。
- ◆**(乳房外)パジェット病**
主に汗を作るところの細胞が癌化する皮膚癌です。パジェット細胞という癌細胞が増殖しますが、最初は表面だけに留まっており、深くには及んでいない状態です。乳頭や乳輪に生じる乳房パジェット病と、陰部や腋などに生じる乳房外パジェット病とがあります。乳房パジェット病は乳癌と同じように扱われます。
【**症状**】60歳以上の高齢者に多く発生します。陰部や腋などに赤くて湿った病変が生じ、表面にかさぶたがついたり、痒みがあったりします。見た目が湿疹やたむしに似ていることがありますが、薬を塗ってもよくなりず、少しずつ広がっていきます。赤い病変の他に白色や茶色の病変も混じることがあります。進行するとしこりができたりします。

お互いの強みを生かしていけば治療の可能性はもっと広がる

この4月に新設された形成外科の三上太郎医師と新しく皮膚科に着任した種子島智彦医師、そして緩和ケアチームの大野悦子看護師に、形成外科と皮膚科の協力による皮膚悪性腫瘍の診療をはじめ、それぞれの取り組みを聞きました。



陰圧維持管理装置
褥瘡の患部にスポンジのパッドを密着させ、左の本体からチューブを通して真空状態を作り、患部の肉をすく上げる。継続的に使用できるように本体を小さなバックに入れて、装着したまま外出も可能。

悪性腫瘍に連携プレーでアプローチ

— 種子島先生も4月に市立病院の皮膚科に新たに着任されましたが、専門は皮膚腫瘍ですね。

種子島 皮膚科の中では一般的ではありませんが、この領域はこれから進歩すると思いました。市立病院はこれまで、皮膚腫瘍は扱っていませんでしたが、扱う医療機関が地域的に少なく、形成外科と三上先生という強力な味方ができたので、悪性腫瘍に取り組めるように、体制固めを進めていきたいと思っています。

三上 形成外科と皮膚科との連携のメリットは大きく、できもの一つでも、悪性の可能性も考えられる場面では、診断を皮膚科の先生に依頼します。形成外科の医師はダーモスコピーを覗く技量がなく、すぐ隣で診察している種子島先生に依頼するなど、日々連携しています。

種子島 形成外科は現在は三上先生一人ですが、手術は一人の医師ではできないことが多く、医師のマンパワーがある皮膚科では手術の勉強にもなるので、形成外科の手術も手伝っています。



ダーモスコピー
強い光をあてて患部を見る拡大鏡。比較的単純な原理だが、倍率は約10倍ほど。皮膚科ではよく使用される。

形成外科

三上 太郎 科部長

横浜市立大学附属病院の形成外科を中心にいくつかの地域基幹病院等において形成外科診療を経験し、今年4月より茅ヶ崎市立病院形成外科科部長に着任。医学博士、横浜市立大学医学部形成外科客員准教授。一般社団法人日本形成外科学会形成外科専門医、一般社団法人日本熱傷学会熱傷専門医の専門性資格を保有。「患者さんの現状に合った診療、治療の提供」を念頭に日々診療に当たる。



皮膚科

種子島 智彦 医長

横浜市立大学大学院で環境免疫病態皮膚科学を専攻、皮膚の悪性腫瘍を中心に研究。その後、小田原、平塚、藤沢など、湘南地区の病院の皮膚科に勤務、診療にあたる。今年4月より茅ヶ崎市立病院皮膚科に着任。直接の面識はなかったものの、三上医師の大学の後輩にあたることもあり、コミュニケーションもとりやすい。



緩和ケア担当

大野 悦子 看護師

市立病院に3人在籍する「緩和ケア認定看護師」の1人。がんと診断された時から感じる患者さんの身体や心のつらさを和らげ、患者さんやご家族が自分らしく過ごせるように、医学的な側面に限らず幅広い緩和ケアを行う。認定看護師は5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める認定看護師教育を修め、認定審査に合格することで取得できる。



るかもしれない」と、医師の告知は、要点だけで終わり、患者さんからその場で疑問が出ないケースが多々あります。緩和ケアの看護師さんに入ってもらおうと、困りごとや不安なことなど、医師の前では出なかった言葉が出てきて、非常に助かります。

大野 皮膚科からの依頼は今回の告知のケースが初めてでした。

種子島 今まで悪性腫瘍を扱っていませんでした。

三上 緩和ケアチームはたぶん科の垣根という観点からすると、一番フラットな部門ですね。

地域医療だからこそ求められるもの

— 三上先生は出張講座を行っていらっしゃいますね。

三上 茅ヶ崎市内に形成外科のクリニックは非常に少なく、市民の皆さんにとって形成外科は馴染みがないようなので、こういう方は形成外科を受診してくださいと講座で説明しています。参加者はご高齢の方が多いですね。茅ヶ崎市は元気な方が多く、80、90歳を超えても杖もつかずにすたすた診察室に入って来られる方が多くてびっくりしています。

種子島 藤沢や平塚、小田原に比べても、茅ヶ崎が一番元気ですね。都会と自然のバランスがいいのかもしれない。

— サーフィンが好きな人も多いですね。皮膚科では市民の皆さんの日焼けも気になりませんか。

種子島 確かにあります。日焼け止めを使う方が少なく、紫外線にやられることが多いようです。

— 地域の開業医向けの地域医療支援の説明会を実施したそうですね。

三上 市立病院は一般病床400床以上の地域医療支援病院なので、紹介状なしで受診する場合などに保険適用の診療費とは別に、国が定める「選定療養費」を患者さんに負担していただかなければならず、基本的にかかりつけ医からの紹介患者さんを受け入れる形となります。そのため患者支援センターと一緒に、市立病院の取り組みを理解していただくために説明を行い、「困っておられる患者さんを紹介してください」と地域の開業医の皆さんにお伝えしています。

種子島 診療科に関わらず行っていますね。

三上 地域の開業医と中核病院との連携は地域医療にとって重要なテーマです。市立病院ですから、その役割は特に大切です。市民の皆さんの健康で明るい暮らしに寄り添えるように、私たちの特色をいかした医療を提供していきたいと考えています。

求められる 緩和ケア

— 悪性腫瘍の治療には緩和ケアとの関わりも大きいですが、どのようなケアをされるのですか。

大野 主治医の先生からの依頼票を受けて関わりを持ちます。初診だと20分から30分問診をして、全体評価を行い、依頼項目に添った提案を先生に返しています。入院中の患者さんについては、病棟の看護師に電子カルテで「排便コントロールはこうやってください」などのコメントをつけて連携しています。

三上 緩和ケアを行うと薬の関係で、便秘になりがちですね。

— 大野さんは入院患者さんのところにも行かれるのですか。

大野 緩和ケアチームは、外来、入院、いずれにも関わります。最近、心不全も介入の対象になりました。

種子島 先日、皮膚科からおりましたね。

大野 「がん告知の人がいるから」と外来から連絡があり、同席しました。

— 告知にも同席するんですか。

種子島 「病気がこう、治療法がこう、その結果はこう、予後はこうな

進む医療へのニーズにマッチした病院へ向けて

茅ヶ崎市立病院本館改修工事計画、進行中

茅ヶ崎市立病院では目まぐるしく変わる医療環境に適応し、医療機能を充実させるため、今年完成した別棟へ診療に直接関わりのない管理部門が本館から移動しました。引き続き本館改修工事を進め、救急医療、外来診療、内視鏡室、患者支援センターの充実を目指します。(図は各施設の完成予想図)



内視鏡受付

増加する検査や治療に対応するため、内視鏡室が拡大します。



治療内視鏡室

体への負担が少ない内視鏡による治療、手術を行います。日帰りの手術も可能です。



下部前処理室

大腸内視鏡検査を行う前に、大腸や直腸を検査に適した状態に準備します。



中央観察室

外来患者の安静後採血、点滴治療や外来手術患者の術後観察などに利用します。



化学療法室

増加する外来でのがん化学療法に対応するために新設します。



患者支援センター

医療・介護に対する相談や医療施設等との連携を強化します。



相談コーナー

患者支援センター内の相談コーナーでは患者さんだけでなくご家族の相談も受けます。



救急ワークステーション

救急スペースの拡充とともに、救急隊員が常駐し、連携の強化を図ります。

見て 聞いて 体験

病院で健康について学んでみませんか

現役の専門職が伝えたい「健康長寿の秘けつ(全5回)」

これまで市内の公共施設で実施してきた講座の中から人気の講座をギュッと集め、毎月1回全5回シリーズの健康講座を市立病院で開催します。年齢を重ねるとともに気になる病気や薬の話をはじめ、市民の皆さんにぜひ知ってほしい健康を維持するためのポイントを各分野のスペシャリストがお伝えします。参加費は無料です。全回受講された方には、最終回に修了証をお渡しします。

これからの健康が心配な方、現在病気と向き合われている方、今は健康だけど市立病院を見ておきたいという方、ぜひご参加ください。

講座内容(予定) 11月から翌年3月まで毎月第4月曜日(第4回除く)

第1回 11月25日(月)

食べることは生きること

栄養士 葦津幸子
病気の予防につながる食事や食べることの大切さをお伝えします



第2回 12月23日(月)

ひざ痛・腰痛症に対する運動療法

理学療法士 長谷川睦
自宅でも気軽に簡単できるストレッチをお伝えします



第3回 1月27日(月)

知って得する薬の話

薬剤師 端山智
薬の飲み方、飲み合わせ、副作用についてお伝えします



第4回 2月17日(月)

知っておきたい認知症予防

看護師 山岸由佳
認知症の正しい理解とその予防方法についてお伝えします



第5回 3月23日(月)

生活習慣病の予防について

医師 田中洋
病気を寄せつけない健康寿命をのばす秘けつをお伝えします



いつまでも健康
ているための秘
けつを学びにい
くぞよ



日ごろ疑問に
思っているこ
とを質問して
みよう

開催要項

会場：茅ヶ崎市立病院 第2・第3会議室 時間：14:00~15:30まで 定員：40名(申込制) 申込先電話：52-1111 医事課医事担当
備考：全回受講できる方を優先します

■紹介状をお持ちください

初期の医療は患者さんの身近にある診療所が担い、診療所が対応できない医療は地域の基幹病院が担うという医療機関の機能分担の推進を目的として、市立病院など400床以上の地域医療支援病院で徴収が義務づけられています。

他の医療機関からの紹介状を持たずに市立病院を受診する場合は、通常の初診料のほかに選定療養費として5,500円(税込)をご負担いただきます。



茅ヶ崎市立病院

☎0467-52-1111

◇受付時間=午前8時30分~11時

◇診療時間=午前9時~午後5時

◇休診日=土・日曜日、祝日、年末年始